

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.5) 2003.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

序 川崎富作

皆様新年おめでとうございます。2002年には色々なことがありましたが、印象的な2つの出来事について考えてみたいと思います。まず第一は、20数年前に北朝鮮に拉致された5人が帰国したことです。北朝鮮が工作員を日本に上陸させて、何人もの日本人を強引に日本の国土から連れ去っていた事実は日本の主権を犯した重大犯罪であったにも拘らず、日本政府は犯人逮捕に真剣に取り組んで来たとはとても思えません。もし拉致の現行犯を早期に逮捕していたら、その後の展開は全く違っていただいでしょう。北朝鮮による拉致事件は公然の秘密で、国民は皆十分その事実を感じていたのに、国民の生命と財産を守るべき日本政府が如何に怠慢であったかを5人の帰国が証明したといえましょう。これは明治以来の日本の政治体制つまり立憲君主制、戦後は議会制民主主義を表看板にしても実は官僚支配体制が、敗戦後の今日でも全くかわらずに続いているため、真に市民の立場に立つ市民のための政治が行われていない好例と云えるのではないのでしょうか。その証拠に事務次官会議で閣議事項をすべて決定し、閣僚は殆どそれに従うという操り人形にすぎないからです。この官僚支配体制の打破こそ、構造改革の根幹でなければならないのに、小泉内閣はこの点に関しては従来の自民党内閣と少しも変わっていません。これを打破するには次の選挙で国民が野党

に政権を取らせる勇気を出す事です。

隣の韓国では、5年前に金大中大統領を選び、今回また盧武鉉氏という市民の代表を選んだことは、韓国国民の方が日本人より民主主義を一步前進させていると思います。ですから北朝鮮に対する太陽政策に期待したいと思います。

第二はノーベル化学賞に田中耕一さんが選ばれたことです。さすがにノーベル賞選考委員会の目は高く、虚をつかれた日本の文化勲章選考委員会などが、慌てて次々と賞を出す様は将に「滑稽」の一語に盡きます。これも各賞を出す委員会が明治以来の官僚的体質と思考から抜け切れず、外国から逆輸入されてはじめて、心ならずも認めるという100年来の陋習が露呈されたといえましょう。NHKの「プロジェクトX」などをみると、無名の優秀な人々が、津々浦々にいて立派な仕事で社会や国を支えていることを証明しており、日本の市民はもっと自信を持ち、胸を張って発言し行動すべきと感じています。

さて、ニュースレターNo.5には川崎病の病因解明の最先端のリーダーとして研究チームを指導されている岡山大学の中山睿一教授と川崎病疫学研究の三代目（初代は重松逸造博士、二代目は柳川洋博士）の中村好一自治医大教授の玉稿をいただくことができました。お二人とも、難しい研究内容を解り易く解説して下さいました。ご期待ください。（当センター理事長）

SEREX 法による川崎病関連抗原の検索

中山 睿一

川崎病では、単球/マクロファージの活性化が起こっており、TNF α 、IL-1などのサイトカインが血中にも放出されています。一方、病理組織学的に重要な所見は、多発性動脈炎ですが、血管病変は恐らく血管内皮細胞の変化が最初起こるものと考えられます。このような病態は、何らかの感染を強く疑わせるものですが、原因となる細菌あるいはウイルスなどの因子は、多大な努力にも拘らず、未だに見出されておられません。感染因子については、さらに、通常は細胞内にかくれているレトロウイルスなども、調べた限りでは、はっきりしないようです。いずれにせよ、感染があれば、通常はこれに対して免疫反応を起こします。また、通常感染でないにしても、患者では明らかに免疫系の活性化が認められます。免疫系は、未知の感染因子に対して作働している可能性もありますし、血管内皮細胞の特定の分子に対して作働して病態を形成している可能性もあります。この免疫系を活性化している原因抗原をまずあらいざらい調べてみようというのが私たちの試みです。このために、用いている方法はSEREX法です。

まず、血管炎のモデルとしてTNF α で処理した臍帯血管内皮細胞 (HUVEC) を用い、このHUVEC から細胞のすべての蛋白を反映するcDNAライブラリーを作製しました。そして、HUVEC蛋白に対する抗体反応をSEREXで解析しました。教室の小野君の指導の下で、古川先生の教室から来ていた金子先生が、川崎病患者血清を用いてスクリーニングを行って来ました。現在までに、4人の患者血清を用いて46個の抗原が得られました。同定した抗原のうち、どの抗原が川崎病患者に特異的であるかについ

て、健常児 (非川崎病) 血清を用いて調べているところです。同定された分子の中には抗原の処理や提示などに重要である「ユビキチン」や「プロテアソーム」も含まれていました。これらは、抗原提示細胞である単球/マクロファージが川崎病急性期の患者血中で活性化しているという古川先生のグループの報告に関連して興味ある結果です。一方、血管内皮細胞だけでなく、心筋細胞、患者の単球/マクロファージの分子に対する免疫反応も興味のあるところです。心筋細胞のSEREX解析では新しい遺伝子が得られて現在解析中です。また、単球/マクロファージについては、川崎富作先生の御努力で全国の施設にお願いして、急性川崎病患者から細胞を集めています。この単球/マクロファージからcDNAライブラリーを作製し、これを標的にしたSEREX解析も行う予定です。

川崎富作先生の病因解明に対するあふれる情熱と強い意志に動かされて、山口大学 古川先生と共同ではじめた私達のSEREX法による川崎病研究も、これからの努力が大事だと思います。みなさまの御理解と御協力をお願い致します。最後になりましたが、研究に御支援を頂いている川崎富作先生および川崎病研究センターに感謝申し上げます。

(岡山大学大学院医歯学総合研究科免疫学教授)

ニューズレターNo.5をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せください。

川崎病文献データベースと川崎病文献集

中村 好一

この度、川崎病研究センターより川崎病の文献集「A Bibliography of Kawasaki Disease 2002」を刊行させて頂きました。これができるまでのいきさつなどについて簡単に紹介させて頂きます。

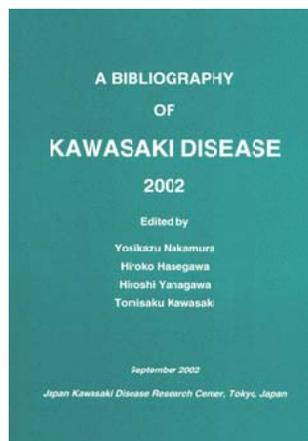
私が勤務する自治医科大学公衆衛生学教室で川崎病の文献収集を体系的に行うようになってから既に15年が経過します。1987年に恩師の柳川洋先生（自治医科大学名誉教授、埼玉県立大学副学長）から、「アジアでの川崎病の発生状況を集めるように」という課題を頂いたことに端を発します。その後、世界中の川崎病の文献を、使用されている言語に関係なく集め続け、現在、6,075編の文献がデータベースに登録されています。新しい文献に関する情報源は医学中央雑誌（毎月1回自治医大図書館に調べに行っています）、Medline（研究室のコンピュータからインターネットを通じて暇がある度に検索しています）、それにコピーを入手した論文の参考文献です。文献に関する情報を入手したときに、既に登録されているものかどうかを確認（コンピュータを使っても結構大変な作業です）、未登録であれば登録してコピーを入手します。コピーは現在までにキャビネット2つほどの量になっています。

このデータベースを文献集として刊行するように、というお話しがあったのは1994年のことでした。1995年に福岡で開催された第5回国際川崎病シンポジウムにあわせて「A Bibliography of Kawasaki Disease」を刊行させて頂きました。この時のポリシーとして「日本の川崎病研究を世界に発信する」というのがありました。外国の文献を読んでいると「〇〇

〇のことが初めてこの研究で確認された」などと書かれていますが、日本では「そんなのは新しい話ではなく、我々にとっては常識的なもの」というようなこともあります。

学問の世界における言語の壁を打ち崩すのはなかなか難しいものがあるのですが、これに少しでも挑戦するべく、文献集掲載の英語以外で書かれた文献にはすべて表題、著者名、雑誌名の英語訳を付ける、ということを行いました。英語の抄録が付いている論文は抄録の表題をそのまま使えばいいのですが、付いていないものはこちらで考えるしかありません。また、日本語の文献の場合には日本語を英語に訳せば良いのですが（これでも乏しい英語の能力により、苦勞しています）、他の言語の英語訳はまず、もとのものを理解する、という問題点から出発します。加えて、コンピュータの上で処理できない文字もあります。現在はロシア語まではなんとかこなしていますが、ハンガルとヘブライ語には対応できていません。

それでも何とか1995年版に引き続き、2002年版を刊行することができました。この文献集が川崎病研究の国際交流の一助となれば幸いです。（自治医科大学公衆衛生学教授・当センター正会員）



購入ご希望の方は当センターまでお申し込みください。（実費1000円送料別）

事務局から

【センター日報】

平成 14 年 5 月 31 日 平成 14 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～

平成 14 年 6 月 8 日 平成 14 年度第 2 回理事会開催 12:30pm～

平成 14 年 6 月 8 日 平成 14 年度総会と研究報告会および懇親会（於:東京 YWCA）1:00pm～
各年度の事業報告及び会計報告、事業計画及び予算計画は総会議事録と共に当センター
でいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

平成 14 年 10 月 18 日 平成 14 年度（財）生存科学研究所川崎病研究会・平成 14 年度第 3 回
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター理事会合同会議（於:生存科学研究所）4:00pm

平成 15 年 3 月 14 日 平成 14 年度理事会開催予定

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員数】12 月末現在

正会員： 122 名（個人） 2 法人 6 任意団体

賛助会員：164 名（個人） 3 法人

【研究会・講演会】

- ★ 第27回近畿川崎病研究会 平成 15 年 3 月 1 日（於:テイジンホール・大阪市）
会長:篠原徹(近畿大学医学部心臓小児科)
- ★ 第23回東海川崎病研究会 平成 15 年 6 月 14 日（土）13 時～18 時（於:愛知県医師会館
地下 1 階「健康教育講堂」） 世話人:白谷尚之(豊橋市民病院小児科)
- ★ 第 4 回北海道川崎病研究会 平成 15 年 7 月 5 日（土）（於:札幌市）
代表世話人:濱田勇(手稲溪仁会病院小児科部長)
- ★ 第 11 回東京川崎病連絡会 平成 15 年 6 月 28 日（土）予定（於:日赤医療センター）
代表世話人:菌部友良(日赤医療センター小児科部長)
- ★ 第 23 回日本川崎病研究会 平成 15 年 9 月 26-27 日（金・土）（於:アイリス愛知）
会長:長嶋正實（あいち小児保健医療総合センター長）
- ★ 「川崎病の子供を持つ親の会」講演会(および医療相談会)
問い合わせ先:「川崎病の子供を持つ親の会」事務局 Tel:044-977-8451

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(月曜日～金曜日:午後 2 時～午後 4 時) **時間変更**

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.1) 2001.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター